

2004(平成 16)年エイズ発生動向 - 概要 -

厚生労働省エイズ動向委員会

エイズ動向委員会は、3ヶ月ごとに委員会を開催し、都道府県等からの報告に基づき患者発生動向を把握し公表している。2004(平成 16)年1年間の発生動向について概要を取りまとめたので報告する。本年の新規 HIV 感染者数とエイズ患者数の報告数の合計は 1,165 件となり、HIV に感染した人の総数が初めて 1,000 件を超える報告数となった。

1. 結果

(1) HIV 感染者の報告数

1996(平成 8)年以降増加が続き、2004(平成 16)年は日本国籍、外国国籍合わせて 780 件と前年に比べて 140 件の増加で、引き続き過去最高の報告数となった(図 1)。日本国籍例は 680 件、外国国籍例は 100 件であった。特に日本国籍男性の増加が顕著で、本年の報告数は前年(525 件)を大きく上回り、過去最高の 636 件となった。日本国籍女性は 44 件と前年(32 件)より増加した(図 3)。

(2) AIDS 患者の報告数

2004(平成 16)年は日本国籍、外国国籍合わせて 385 件で、過去最高となった(図 1)。日本国籍例は 309 件で過去最高であり、外国国籍例も 76 件と昨年(65 件)より増加した。日本国籍男性例は 290 件と、前年(252 件)に比べて多く、増加が続いている。

図 1. HIV 感染者および AIDS 患者報告数の年次推移

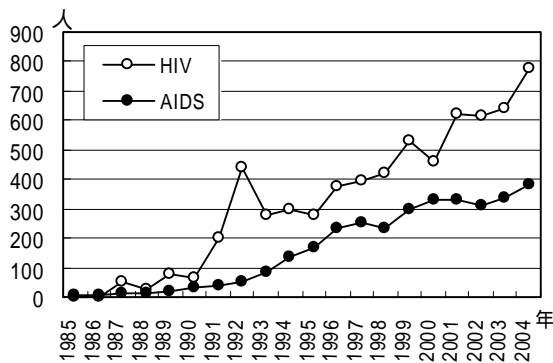


図 2. HIV 感染者の感染経路別内訳(本年報告例)

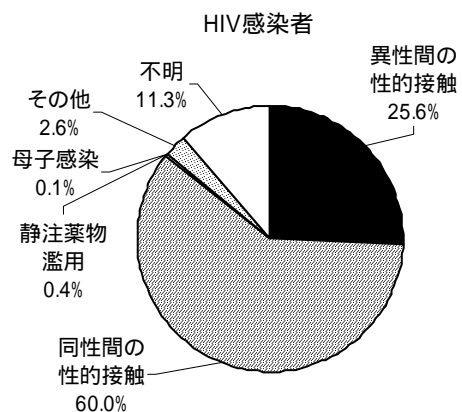


図 3. HIV 感染者報告数の国籍別、性別年次推移

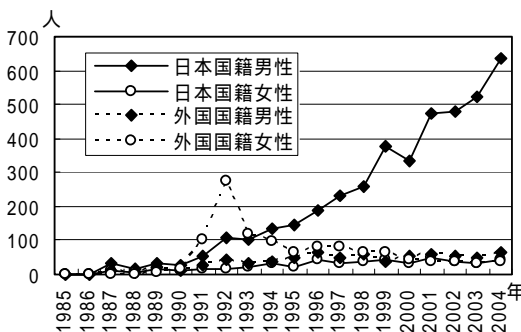
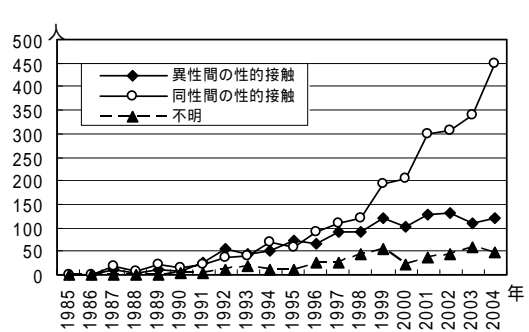


図 4. 日本国籍男性 HIV 感染者の感染経路別年次推移



(3) 感染経路

2004(平成 16)年の HIV 感染者報告例の感染経路は、異性間の性的接触が 200 件(25.6%)、同性間の性的接触が 468 件(60.0%)で、性的接触によるものがあわせて 668 件(85.6%)を占めた(図 2)。日本国籍例では、男性同性間の性的接触が 449 件で、前年(340 件)に比べて著しい増加となった

(図 4)。また、男性異性間の性的接触も 122 件と前年(108 件)より増加した。日本国籍女性の異性間性的接触による HIV 感染者は近年 30-40 件の範囲を変動している(図 5)。

本年における HIV 感染例のうち、男性同性間の性的接触による感染の割合は 15-24 歳の年齢層では 77.5%、25-34 歳では 73.9%、35-49 歳では 63.6%と多く、50 歳以上の年齢層では 31.8%で、男性異性間の性的接触とほぼ同率で推移している(図 7-8)。なお、全年累計における日本国籍の異性間 HIV 感染者の性別構成を年齢階級別にみると、15-19 歳は女性が 71.4%、20-24 歳は女性が 52.6%を占め、男性割合の高い他の年齢層とは異なる(図 6)。

本年における AIDS 患者報告例の感染経路は、異性間の性的接触による感染は 135 件(35.1%)、同性間の性的接触による感染は 141 件(36.6%)で、性的接触による感染が合わせて 276 件(71.7%)を占めた。日本国籍男性例の感染経路を見ると、同性間性的接触の増加が顕著で、本年の報告は 126 件と異性間性的接触(99 件)を上回った。

なお、静注薬物濫用や母子感染によるものは HIV 感染者、AIDS 患者ともにいずれも 1%以下にとどまっている(図 2、10)。本年は、静注薬物濫用による感染報告は 5 例であった。

図 5. 日本国籍女性 HIV 感染者の感染経路別年次推移

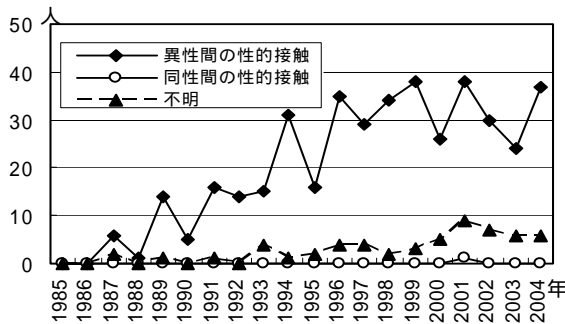


図 6. 日本国籍異性間 HIV 感染者の年齢別、性別内訳(累計)

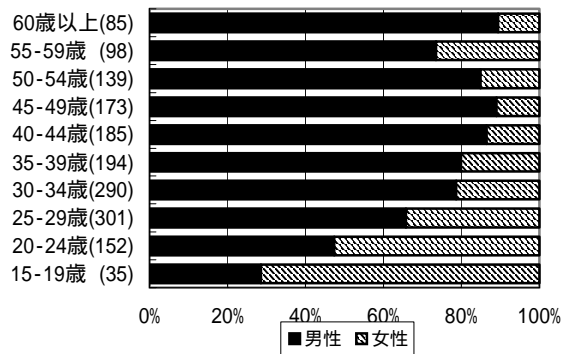


図 7. 日本国籍 HIV 感染者の性別、感染経路別の年次推移

[25-34 歳]

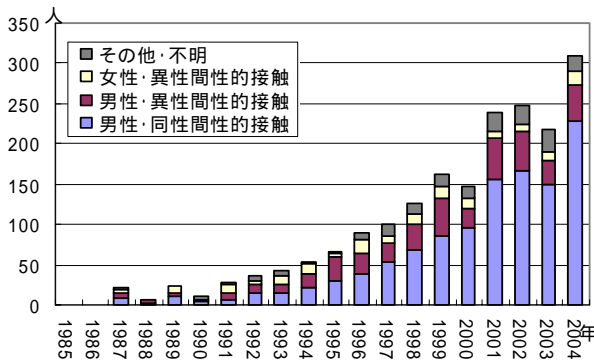


図 9. AIDS 患者報告数の国籍、性別年次推移

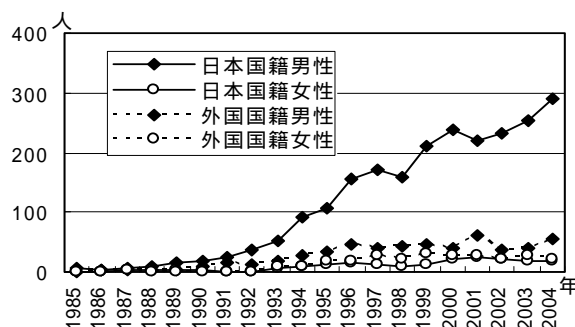


図 8. 日本国籍 HIV 感染者の性別、感染経路別の年次推移

[50 歳以上]

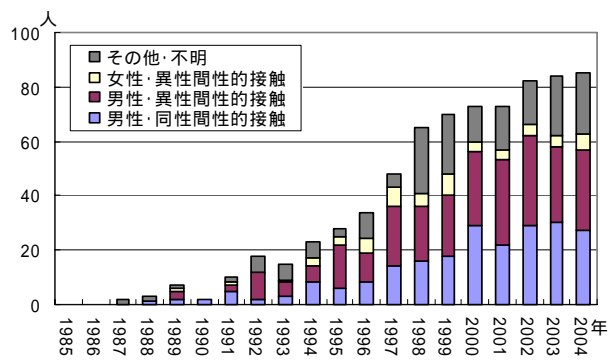
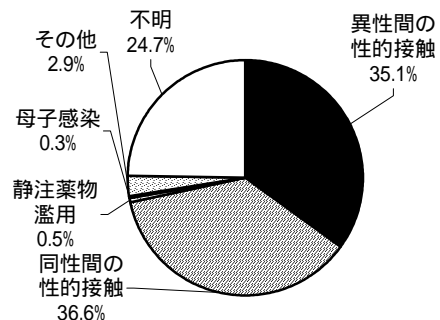


図 10. AIDS 患者の感染経路別内訳(本年報告例)



(4)外国国籍報告

本年の HIV 感染者では 100 件(前年比 20.5%増)、AIDS 患者では 76 件(前年比 17.0%増)が外国国籍であった。HIV 感染者の報告年次推移には大きな変化はないが、感染経路別では男性同性間の性的接触が増加傾向にあり(図 11)、外国国籍者への注意と対応も必要である。

(5)推定される感染地域および報告地

HIV 感染者の推定感染地域は、全体の 82.4%(643 件)が国内感染で、日本国籍例では 90.0%(612 件)を占めていた。AIDS 患者の推定感染地域は全体の 69.6%(268 件)が国内感染例であった。

報告地は、東京都、関東甲信越ブロック(東京都を除く)が依然多く、本年報告例では HIV 感染者全体の 58.6%(457 件)、AIDS 患者全体の 62.3%(240 件)を占めている。

HIV 感染者は近畿、東海、九州、中国・四国をはじめとするすべてのブロックで増加が見られ、AIDS 患者でも北陸、九州を除くすべてのブロックで増加した(図 13)。

図 11. 外国国籍男性の HIV 感染者の感染経路別年次推移

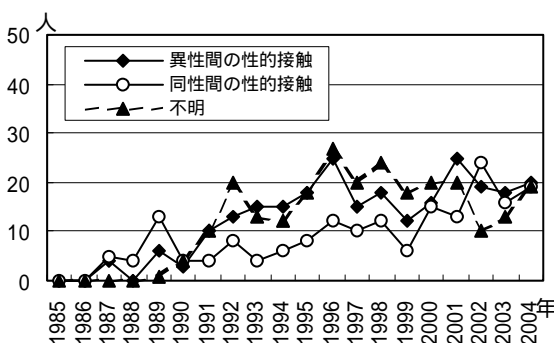


図 12. 日本国籍男性 AIDS 患者 年次推移

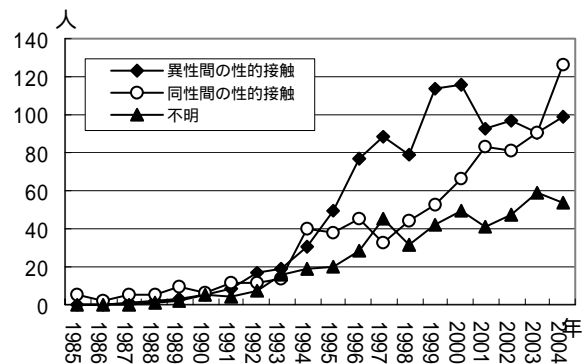
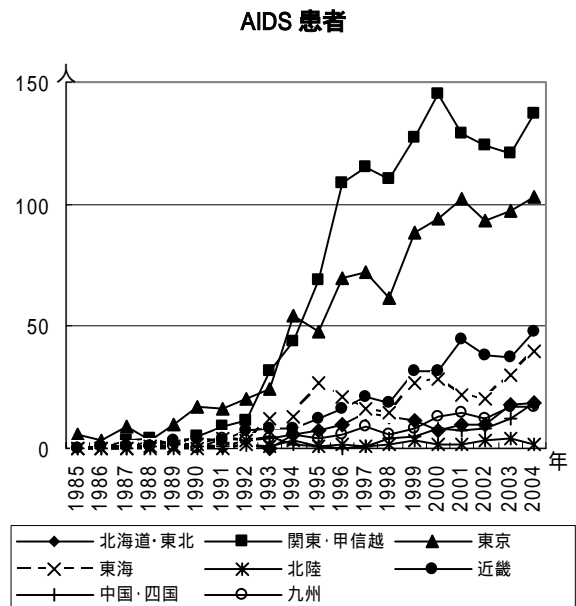
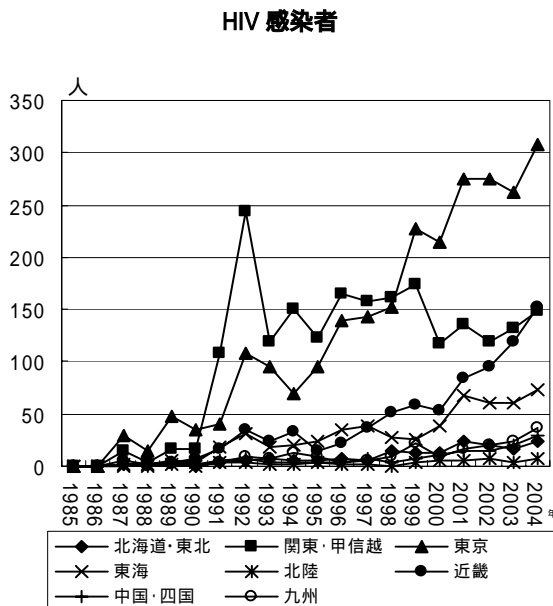


図 13. HIV 感染者および AIDS 患者報告数の報告地別年次推移



2. まとめ

わが国の HIV 感染者、AIDS 患者の発生動向は増加が続き、性的接触によるものを中心として拡大しつつあると言える。特に、男性の同性間性的接触による感染は HIV 感染者の 60.0% を占め、AIDS 患者も増加傾向にあることから、予防啓発の普及と検査による早期発見・早期治療の機会拡大が必要である。また、異性間の性的接触に対しては、男性のみならず女性、特に若年層への重点的な啓発普及が必要である。HIV 感染は、これまでの東京を中心とする関東地域に加え、近畿、東海ブロックなど地方においても報告数の増加傾向がみられ、各地域での対策の展開が望まれる。